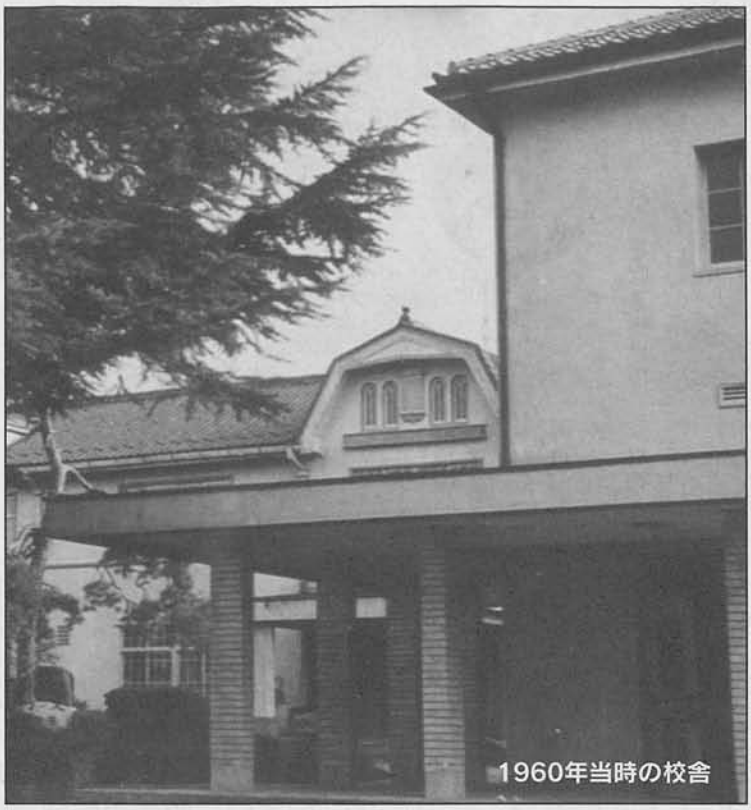

1960年当時の校舎

時の針

発行　児玉高校同窓会
会長　松本一夫
事務局　児玉町八幡山
410　県立児玉高校内

ごあいさつ

同窓会会長　松本　一夫

会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は同窓会の運営、発展のために格別のご理解とご協力を賜わり、誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

九年度の総会が四月二十六日、会員多数の出席を得て開催され、満場一致にて原案どおり可決承認されました。

本総会で、本会発展と母校隆昌のため、永年に亘り、多大なるご尽力を賜わりました退任なさる役員の皆様方には本当にありがとうございました。今後もご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

昨年度は同窓会報「時の針」で応援歌を募り、寄せられました貴重な三作品を母校に寄贈することができ、お寄せ下さいました皆様に心より感謝申し上げます。

さて、いつも思うことですが、同窓会活動の原点とは、会員相互の親睦を深めることにより、母校の発展を図り、しいては地域社会の発展に寄与することであり、これを念頭において前進する覚悟であります。

例年の行事といたしまして、四月に定期総会、十月にバスハイク、十二月に忘年会、一月に新年会を開催しております。ご都合のよろしいときは奮ってご参加いただければ幸いです。行事を実施するうえで費用面等で全ての会員の皆様方に連絡ができませんので、事務局である学校か最寄りの本部役員に電話で気軽に申し込んで下さい。生き生きした同窓会活動を推進するには会員一人でも多くのご参加をいただけることが何よりの原動力でありますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年度も事業を進めていくうえで、昨年同様三委員会体制で実施していくことになり、母校児玉高

校に生徒を送りこんでくれるＰＴＡ、後援会の皆様と連携を密にし、良き児玉高校を育てていく手助けが大きな使命と思っております。

同窓生各位のご健勝とご発展をご祈念申し上げご挨拶といたします。

ごあいさつ
「学校、四季折々」

学校長　佐々木勝一

赤城下ろしが杉林を吹き抜け欅の大木を揺する。上信越の山々に厳冬の乾いた日の光が照り返し雪の白さが遠望ながら目に染みる。児玉高校の一年間は元日の柔道場に響く寒稽古に始まる。一月末に推薦入学受付、二月当初に面接と体育の適性検査、下旬に一般入試の学力検査と面接で新年度の準備が進む。体育コースはこの頃長野の野沢温泉村でスキー実習を最適なゲレンデで実施、私も日帰りで豪雪の中を激励にでかけたことがあった。日曜とかさならなければ三月八日は卒業式、列席の保護者の多さ、リラックスした全日制生徒、感激の表情の定時制諸君、校長は式辞に苦心する。平成八年度には、第一に映画「男はつらいよ」の寅さんの台詞を引用し心の豊かさを、第二に児玉町長さんの町政最重要課題は水とごみとのお話から環境問題を、第三には国際化時代の中での生き方を話した。卒業を祝う会で話題になった。梅が福寿草が菜の花が咲く三月末は最上級生のいない淋しい終業式で年度が終わる。

四月、桜満開の春爛漫八日は校長の一年で最も長い日となる。10時新任式・始業式、13時入学式、真新しい制服に緊張した顔、保護者は威儀を正し学校への期待を表示する。式辞は、入学時の初心の大切さ、学業を怠ることなく部活動等にも専心し将来展望を常に持ち貴重な青春時代を開始するよう述べる。14時保護者会、15時定時制入学式、勉学できる幸せを実感し健康に留意しての四年間を祈念する式辞となる。15時30分保護者会、18時定時制新任式・始業式、19時近く校長室にもどる。正面に17代まで背後に25代までの校長が私を見つめ学校沿革の重さを認識する。四月下旬「遠足」、各学年別々に児玉郡内の名所を田舎道や山道を辿る本来の遠足である。春風が心地よく生徒の列をつつみ野辺の草花が歓迎する。今後も大切にしたい行事である。ゴールデンウイークの真ん中、五月一日が開校記念日とは都合がいい。下旬にはＰＴＡ後援会総会で外郭団体の新年度が始まる。修学旅行は北海道だと六月が最適で、関西・九州・沖縄方面だと秋になる。平成九年度から航空機が許可になった。

憲法講話、進路指導相談会、映画鑑賞会、文化講演会、進路講演会、芸術鑑賞会、球技大会、予餞会、等々継続され成果を上げている行事が年間を通じて実施されている。講演会の講師には何が今の高校生に必要かを検討しつつ適切な方を迎えている。

九月下旬から十月にかけて「雉ケ岡祭」、文化祭はその時々の生徒の変化がよく分かる。戦後復興期までは授業作品の展示と文化部の発表が主流で、地域の人々が楽しみにして訪れたものだった。30年程前から生徒の自主性を重視した方向性がどの高校でも出され、文化部の発表は少なくなり学級単位で担当の傾向になり、実態は感覚的で遊び型思考文化祭といわれても仕方のない状況で各高校の悩みにもなっている。体育大会は学年縦割りの得点制で、児玉高校は棒倒しをやっていて現在では珍しい。十一月末の寒風が身に染みる季節、小山川沿いに生徒が走る。クロスカントリーである。体育の時間数に入るため頑張る姿が微笑ましい。

十二月二十四日夜18時30分、強風が4階視聴覚室の窓をたたく頃、定時制の二学期終業式が終り、児玉高校の一年間が経過する。

同窓生各位には、母校の日々がどうなのか関心が高いと感じ、

淡々と記してみた。時代とともに生徒も教師も保護者も変化しているが、学校そのものの年間は急変しない。世はマルチメディアのご時勢で忙しく動いている。しかし、教室には黒板にチョークの音がこつこつ、グランドに体育館に若い歓声、ピアノの練習が木霊し、雉ケ岡城址二の丸はそのままの環境にあり、林間の風が見える。

華道部は校長室に毎週金曜日に季節の花を活けにきてくれる。

活躍している同窓生

高校第13回卒　関根　透

私は両足が悪く、高校では皆んなに助けられながら、四年間かけて卒業しましたので、母校には特別な愛着があります。当時、神岡生徒会長の下で生徒会の会計を担当し、昭和三十六年に高柳先生たちと卒業しました。横浜国立大学に入学し、宿題のレポートが縁で、哲学倫理学科に転科しました。その後、広島大学大学院に進学し、倫理思想史を専攻し、昭和四十五年に鶴見大学歯学部に就職しました。この年に歯学部が認可され、当時の歯学部長から医の倫理を研究するようにとのことで、日本における医の倫理思想史を調べるようになって現在に至っています。

一昨年は、仏教文化研究所を設立し、主任として兼務していますが、最近は仏教の面白さを知り、仏教に見る医の倫理観を調べています。現在、心筋梗塞での入院が縁で、東京女子医大、神奈川歯大などにも講義に行っています。余暇には散歩を心掛け、趣味として楷の木という樹木を訪ねています。

出会いと人生

高校第10回卒　藤田八重子（旧姓野沢）

「おとぎの国のお城みたい」と子らは言う。ここ丹荘の地に、明治七年に開設された阿保学校、以来幾度か変遷を重ねて、西洋の宮殿風になった学び舎、一二三年の歴史と伝統が、五〇三名の児童に受け継がれ、未来へはばたくエネルギー源になっています。

すてきな宝石箱の中で、二十一世紀を荷う子供たちをみがき育てることの幸せを日々感じております。高校卒業時、悩んだ末この職業への進路を選び、こんなにも充実した日々を過せるとは思ってもいませんでした。これも十年前の勤務校で校長さんとの出会いがあった結果です。出会いとは、人生を変えてしまう不思議な効力を持っているものです。この紙面に掲載させていただくことになったのも、この地へ勤務して、松本会長さんと再度の出会いあってのことです。

国体で四位入賞

高校第19回卒　岡芹　喜行

第二回全日本弓道遠的選手権大会・平成七年九月九日～十日愛知県岡崎市弓道場で開催され、四位に入賞しました。

また、平成七年十月十五日～十八日まで行われた、ふくしま国体秋季大会弓道競技の部にも埼玉県代表に選ばれ、成年の部で、近的四位の成績を上げ、近的・遠的の総合でも七位になりました。

修学旅行今昔
見学先での思いで

高女2回

風邪を引いていて喉を痛めて、どの写真も喉に包帯を巻いていました。

松島から塩釜まで船で揺られていきました。ああ松島や松島やと堪能しました。

高女10回

道路が良く見学地の掃除が行き届いていて京都御所の素晴らしかったこと。

高校5回

奈良は、ほとんどお寺周りでしたが、やはり一番良かったと思います。

高校9回

京都の建物、仏像そして、夜の自由行動でブラブラとお喋りしながら町を歩きお土産などを買ったこと。

高校19回

それぞれ歴史の深さと建造物の巧み、見事に配置された庭園の美しさ・造形美に感動し、瀬戸内海に点在する島々と海の景観に穏やかな心を感じた。

高校25回

金比羅様の頂上からの景色が最高で、もう一度見たい。

（右の写真は高校第26回）

高校29回

金閣寺で夕立に遭いあわてて軒下に駆け込みました。夕立が上がって夕日に照らされた金閣寺は格別でした。

高校42回

広島の厳島神社と平和公園を見学したことで、原爆ドームなどを見て改めて戦争の怖さを思いました。

高校49回

函館山の夜景と濃霧

三十八年前の思いで

第12回（昭和三五年卒）
吉川　義彦

この写真の女性は、私たちが三十八年前（昭和三十四年）関西へ修学旅行をした三年A組を四日間お世話してくれたバスガイドさんです。

高校三年という十七から十八歳の多感な時期、異性から心のこもる応対をしてもらった若者の気持ちは強く揺り動かされます。

旅行から帰ってガイドさんに熱い手紙を出したことを思い出しました。

一乗客からのこうした手紙は、日本一といえる観光名所のガイドさんにとってはおそらく毎日のことだったに違いありません。返事はいただけませんでしたが、それでも三十八年がたち、五十五歳になった今でもこのガイドさんのことは懐かしい思い出として心に残っています。一緒に旅行した女生徒たちにも、こうした旅先で出会った異性との何らかの思い出のようなものがあるのでしょうか。今からでも、聞いてみたい気がします。

それにしても、戦後まもないこの時代、男性たちに伍して懸命に生きていたガイドさんに心から拍手を送りたいと思います。

昭和三十年代前半のこの時期私たちの暮らしは終戦後の「なりふりかまわず」というところから、ようやく抜け出し「内」と「外」とを使い分ける余裕ができてきた頃でした。それでもまだ、いつでもという訳にはいかず、この旅行でも決して軽いとはいえない「米」を関西まで持っていかなければなりませんでした。

交通機関も三年生全員が八高線に乗ることが出来ず、確か、倉賀野駅まで二班に分かれていったことを思い出します。この待ち合せ一時間余りの長かったこと、しかし、誰もがこうしたやり方を「やむを得ない」と認めていたところに当時の戦後まもない時代の風潮を感じます。

思い出を書くにあたって押入の奥から修学旅行の記念写真を取りだしてみました。写真に刻み込まれている日付から四月十一日伊勢神宮、奈良公園、東大寺、興福寺、十二日法隆寺、大阪城、十三日清水寺、二条城、嵐山、平等院、十四日平安神宮、比叡山と超ハードなスケジュールをこなした旅行であったことがわかります。

限られた予算と短い時間の中で一カ所でも多く見せておいてやろうという先生方の熱い気持ちが伝わってきます。今ならこの中のどの旧跡にも、半日はさいて、ゆっくり歩きたいところでしょう。

聞くところでは、この頃の修学旅行は全員で北海道の農家へ分宿し、広い畑へでて農家の人たちと一緒に汗を流すとか、凧を伝えている土地の古老を訪ねて、みんなで大凧を作り一斉にあげて競うというように、修学旅行も大変変わってきているようです。

昭和三十年代前半、当時の時代背景からすればこうした修学旅行をすることは無駄であったにしても、旅行のプランニングにもう少し生徒たちが参加できる修学旅行であったならと思います。

旅行から三十八年がたった今、仕事の都合で東京駅の雑踏の中を歩くことがたまにあります。制服姿の修学旅行の高校生たちが、短い休憩時間の合間に一斉にトイレの方へ駆け出して行くのを見たりすると物質的には恵まれていなかったが、精神的にはむしろ今よりは充実していた三年間の高校時代のクラス仲間たち、学校の仲間たち、そして先生方の姿が瞼に浮かんできます。

修学旅行スケジュール

	目的地別	宿泊日数	交通手段	服　装	おこづかい
高女２回 昭和７年卒	日光松島 仙台	２泊３日	夜行列車 汽　車	紺色の制服	弐円 弐拾円
高女10回 昭和15年卒	京都奈良 伊勢神宮	５泊６日	夜行列車	セーラー服	10円
高５回 昭和28年卒	京都奈良 伊勢神宮	３泊４日	夜行列車 汽　車	セーラー服	参百から五百円
高９回 昭和32年卒	関西 京都奈良	３泊４日	夜行列車 汽　車	セーラー服	500から1000円
高12回 昭和35年卒	京都奈良 伊勢神宮		列　車	制　服	
高19回 昭和42年卒	関西 京都奈良	３泊４日	特　急	制　服	5,000円
高25回 昭和48年卒	関西四国 京都	３泊４日	新幹線	制　服 宿　自　由	7,000円
高29回 昭和52年卒	関西 京都奈良	２泊３日	新幹線	制　服 見学時自由	10,000円
高42回 平成２年卒	京都奈良 広島	４泊５日	新幹線	制　服	20,000円
高49回 平成９年卒	北海道	４泊５日	フェリー 連絡船	制　服	制限なし

思い出あれこれ

高女2回

中禅寺湖畔のホテルに一泊できると云うので夢を抱いて駅に降りたとたん中止になり、駅で2時間も待たされた。聞くところによると東京の女学校が優先で田舎の女学生は悲しい思いをしました。

高女10回

特に感動したのは、伊勢神宮、奈良

夜になると、友達と話がしきれず、仲々ねむれず、先生にしかられた。見学先の説明の時はいねむりをしていた。

高校5回

出発日、午前五時三十分ごろ校庭に集合、トラックに積み込まれて（乗り込み）本庄駅に向かい本庄駅から汽車で東京駅に着いたのが午前八時前後だったように思います。

第一日目の伊勢についたのが午後七時くらいと記憶している。

よく早朝、二見浦の夫婦岩を見学、伊勢神宮を参拝、奈良へ、東大寺を見学。

猿田池畔の旅館に宿泊、翌日京都へ、三十三間堂、二条城、嵐山、渡月橋を見学。

京都の宿では、食中毒をおこして何名かが遅れて帰りました。

私は伊勢で腹痛をおこしてお粥を炊いてもらいました。

高校9回

友達の寝顔を写した写真ができました。こんなことあったんだなと、四十年ぶりに思い出しました。

高校29回

宿の夕食はお酒はなしでしたが、宴会気分で、鍋料理を囲んで楽しかった。

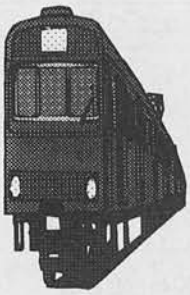
高校42回

奈良では、お寺などの見学より、ドリームランドという遊園地で遊んだことが、一番の思い出です。

修学旅行特集のアンケートをいただいた同窓生の方々

高女2回（昭和7年卒）田中トク（旧姓・峰岸）、高女10回（昭和15年卒）堀越富子（旧姓・丸橋）、高5回（昭和28年卒）越川志佐江（旧姓・大島）、高9回（昭和32年卒）斉藤弘子（旧姓・笠間）、高12回（昭和35年卒）吉川義彦、高19回（昭和42年卒）中澤禮子（旧姓・吉田）、高25回（昭和48年卒）田村信子（旧姓・浅見）、高29回（昭和52年卒）渋谷路子（旧姓・中林）、高42回（平成2年卒）浅見由美、高49回（平成9年卒）田端孝夫

ご協力ありがとうございました。



児玉高校の現況と未来

教頭　飯塚　和夫

【進路状況にみるここ数年の変化】

別表（1）は本年三月と平成四年度以来の卒業生の進路先比較である。進路先はそれぞれの時代の経済状況などにも左右されるので、一概に一つの物差しで比較することは難しいが、高校進学率が一〇〇％近くに迫る今日、生徒の進路先も非常に多様化してきている。以前の児玉高校の特徴としては、大学、短大、専門学校、就職の三つの進路先について三等分できるということが指摘されてきた。地域に根ざす高校として、それぞれに対応できる進路指導が展開されてきた。ところが近年の不況を反映して就職状況が極めて厳しくなっており、それは別表（2）の求人数の減少からも想像に難しくない。女子に人気の事務職は若干しかなく、就職したくても出来ない現実がある。その結果三等分のバランスが崩れ、「安易な専門学校選び」に流れる現象を生み出している。試験らしい試験もない専門学校希望者が増えたことは、高校三年の生活から緊張感を奪い、アルバイトや教習所通いに精を出す生徒も多い。このことは他学年にも波及し、学校全体の活力を失わせる危惧もある。放課後になると静まり返る校内の風景が気になる。

【取り組むべき課題】

先に述べた「地域に根ざした高校」という概念は、児玉の地域性からして、今後も多様な生徒を受け入れ育てるという点で踏襲されて行くべきであろう。単に学力だけを指標とすることなく、地域産業の人材育成と活性化や、体育コースによるスポーツ人材の養成など、幅広い教育課程が求められる。一方ではやはり「大学進学を目指す者が大学を目指せる」ような本格的な体制も必要になってきている。他の進学校への遠距離通学を避け、身近な高校にも夢を託せるものがあって良いのである。そのためにも、即ち進路先を異にする大勢の生徒が同じ教育課程、同じ教材で学習することは決して平等主義ではない。むしろ、それぞれの進路目的に合わせたシステムを作り出すことが、「どの子の進路目的にも手を差しのべる」平等主義なのである。

以上のように、提示される問題点は比較的明瞭である。この課題に取り組むにあたっての方向性を次に述べておきたいと思う。

【「学校改革」に求められる条件】

（1）意識改革

教職員は勿論、PTA・同窓会が物心ともに協力しあえる体制づくりが必要である。教職員にあっては教科の壁を超えて、学校全体の教育課程の抜本的見直しをはかる。普通コース、体育コースの既成の枠にとらわれずに、「進学コース」のような進学強化にシフトしたコースの導入も検討する。PTA活動ものレク的要素以外に、同窓会とも連携しながら求人開拓や家庭教育環境向上のための研修

会などにも力を入れて欲しい。学校長は積極的に環境整備・条件整備拡充のための行政への働きかけを強化して欲しい。

(2) 具体的スケジュール

八十周年が近づいている。また、生徒減少による学級減も予想される。特定の施設整備などに偏りがちだったこれまでの周年事業のあり方を見直し、校舎の全面改修を行政に要請しながら、新しい教育システムのたち上げのための様々な具体的必要事項をピックアップし、個々の教職員の能力が最大限に発揮されるような環境実現を目指したい。

校内に設置されている「校務委員会」を中心に学級減及び周年事業にタイミングを取りながら一連の改革を実行して行きたい。

(3) 組織づくり

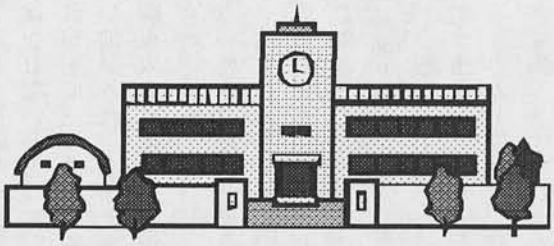
教職員、PTA、同窓会を横断する「協議体」なども考えられる。特に周年事業についての組織づくりが本格化する時期に先行して校内での議論を活性化させる。基本的には校務委員会を予備機関として本格的な組織づくりを目指したい。

求人状況

地区・業種別	平成４年度	平成８年度
児玉本庄	111	63
高崎線沿線	135	43
埼玉県内	147	61
群馬東日本	70	28
東京販売	99	9
東京製造	113	25
東京サービス	201	92
計	887	321

卒業生進路別集計

進路先	平成４年度	平成６年度	平成７年度	平成８年度
大学	10	8	12	17
短大	41	48	51	31
専修各種	153	152	124	143
就職	103	91	86	79
その他	40	47	38	42
計	347	346	311	312



部活紹介

柔道部

伝統をひき継ぐ

顧問　高柳　和夫
　　浅岡　一志
　　長嶋　光男

同窓会の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

常日頃皆様には、本校のために様々なご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

今回は平素の活動を報告し、その成果をしるす記念事業の件を書き、いま一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

柔道部は本庄児玉地区と大里地区の子供達を集め、年間一日も休まず訓練しております。年間数回行われる合宿には、関東はじめ信越、東北地区の有名校も参加します。体育コース設定以来、益々優秀な生徒が集まり、互いに切磋琢磨して実績を伸ばしております。

平成八年六月の関東大会出場により、通算二十回目の関東大会出場を達成致しました。県下では大宮工、武蔵越生に続きますが、県立普通科の学校としては最初の功績となります。

つきましては、柔道部保護者会とOB会が協同して、資金を集めこれを祝うとともに、伝統として残す記念碑を校内に建立する運びとなりました。来年度初には、完成する予定です。

今後はこれを一里塚として、更に伝統を築くため、子供達を鍛えあげる所存でおります。

ご期待をお願い申し上げます。

サッカー部

顧問　田村　浩

私が児玉に移り住んで15年間が過ぎました。小学校からサッカーを始めて、サッカーの町「児玉」の事は、よく聞いて知っておりました。中学生の時は、児玉中学校と大宮サッカー場で対戦し3対1で勝利した事を今でも鮮明に記憶しています。思い返しますと、この頃に、体育の教員になりたいと考え始め、サッカーをより一層努力する様になりました。私にとりまして、このサッカーとの出会いが将来を決定させたかけがえのないスポーツである事は言うまでもありません。ですから、児玉高校でサッカー部の顧問として、生徒と一緒にサッカーが出来る事が、ほんとうに夢のように思えます。

15年前に児玉高校定時制に勤務しながら、全日制サッカー部のコーチを3年間した事がありましたが、その時は生徒と対立し、コーチを辞めてしまった経緯があり、二度と全日制サッカー部の顧問にはなれないと思っていました。それが平成三年に定時制サッカー部が創部され、全国大会に出場し、関東大会に優勝。翌年全国大会第三位になり、やはり、全日制でもう一度やりたいと思うようになっていました。この間、静岡県清水市との交流ができ、人脈も作れましたので、ぜひともこの交流を全日制サッカー部にも、経験させたいと思いました。言うまでもなく清水市は今、日本一と呼ばれているサッカー先進国、役立つ事が数多くあります。これからの児玉のサッカーにとってプラスになる事は確実です。一ツの夢が実現し、二ツ目の夢もまた実現しました。三ツ目の夢、全国……。一度ある事は二度あり、二度ある事は三度あると言います。三ツ目の夢に向って努力したいと思っています。

女子バスケット部

コーチ　根本　靖雄

みなさん、はじめまして、平成8年4月に三郷高校から赴任しました根本です。平成十六年の埼玉国体での少年女子バスケットボールの開催地に児玉町が選ばれ、現在高木監督の下で児玉高校のバスケットボールの発展のため努力している毎日です。

同窓会のみなさんは、ご存知の通り、高木監督の率いる伝統あるバスケットボールは、基礎となる高校生らしさを見失なわず、礼儀作法、学業など中心に、精神的にとにかくがんばるという部活動です。とかく最近の子供は、目的や目標もなく、無気力な子供が多くなっていると言われていますが、私は児玉高校に赴任し、高木カラーのバスケット部を見て、世の中にこんなにがんばる生徒がいるのかと関心させられました。みなさん、まだまだ児玉バスケは、力強い部活動の一つです。私はこの伝統ある女子バスケット部のために全体力を集中し国体を乗り切るつもりです。新チームにも国体候補選手が2人選ばれ、地元の人達も応援してくれています。ぜひみなさん、お近くに来たときは体育館に立ちよってみて下さい。さわやかな若者達のあいさつが聞こえてくると思います。高木監督は今年で定年退職されます。私も生徒も今年は今まで以上の思いをこめ、努力し、全国大会出場を目指しています。かならず、高木先生のためにも、夢がかなうように、全力を出しつくすつもりなので、これからも同窓会のみなさん応援よろしくお願いします。

野球部

顧問　芳野　勇

三年間の「積み重ねを大切に」をモットーに活動している部が「野球部」です。現在、部員は二十五人で、平日は午後四時から練習、土、日曜はオープン戦を中心に野球を頑張っています。

野球部の歴史をひもといてみますと、創部は昭和二十三年、昭和四十八年の夏の大会は県ベスト8、五十一年秋の新人大会は県ベスト4、五十二年は埼玉県高校野球史上初の延長十八回引き分け再試合（対、熊谷商高）、平成に入り元年は県北大会優勝と、数々の歴史がうかがわれます。これも歴代のOBの皆様の努力の結果であると、野球部では語り継がれています。

来年は創部五十周年を迎えます。野球場も外野を全面、芝を張り、バックネット裏は観戦スタンドを造り、遠征用のクラブ・バスを所持できる様になりました。このすばらしい環境は他校からうらやましがられるほどになり、同時に部員一同、気が引きしめられます。これらをベースにもっと、もっと練習し頑張っていかなければと思います。

児玉高校はスポーツが活発であると地域から評価をいただける様になりました。これもOB・OGの皆様の作り上げてきた歴史であると思います。この評価をさらにアップさせることが現役選手の役目であると考えます。今後ともOB・OGの皆様の御指導、応援をよろしくお願いいたします。

明るい写真部へ

顧問　上村　郁也

最近のプリクラ（プリントクラブ）やレンズ付き黒白フィルムのブームのせいか、ここのところ写真に興味を示す人たちが比較的多くなってきたようです。全県的にその傾向があるようで、六月に行われた高等学校写真連盟の写真展でも、作品数が例年よりも二〇％以上も多く、主催者を喜ばせていたようです。わが児玉高校写真部でも現在十名が在籍しており、定期的に活動しています。毎年多くの新入生部員が加入するのですが、高校に入学してはじめて暗室技術を学ぶ生徒がほとんどで、その多くは基本技術を身につける前に辞めてしまいます。現像液に浸した印画紙に自分の作品が浮かび上がってきたときの感動を味わうことなしに。残念なことです。

写真というと、どうも暗室作業のみがクローズアップされ、「暗い」とか「マニアック」といったイメージを持たれがちです。しかし、実際の活動は、野外での自然とのふれあい、町での人々とのふれあいの中から、自分のテーマを追求していくという非常にアクティブなものです。さらに、最近のカメラ技術の進歩により、カメラマンはピントや、絞り値といった面倒なことから解放され、フィールドで自分のテーマに集中できるようになりました。こうした技術の進歩は、今まで暗室作業中心になりがちだった活動を、光を求める活動へと変化させました。これには、現像料やプリント料が格安になったことも要因としてあげることができます。

初心者ばかりではじめた現写真部ですが、最近になって何とか作品らしいものがようやく創れるようになってきました。生徒たちも作品を創る楽しさをおぼえ、積極的に活動しています。今後は、生徒会活動や学校行事でその成果が発揮できるよう、頑張っていきたいと思います。

補足ですが、写真二点は前述の六月写真展のテーマ部門で入選した作品です。

未熟な作品ですが、テーマが「学校」という身近なものであったため、自分のイメージをうまく表現できたのではないかと思います。

茶道部
茶道部の昨今

伊原佐夜子

毎週金曜日の放課後、理科棟三階の作法室は生徒たちの明るい声でにわかに華やぐ。その日は週一回の茶道部の楽しい活動日である。現在は三年生六人、二年生三人、一年生四人の計十三人が岸田先生のご指導のもとで武者小路千家の茶道を習っている。

生徒たちの間で「師匠」と敬意を込めて呼ばれている岸田先生は、児玉高校の茶道部を四十年近く熱心にご指導して下さり、現在の茶道部の正に生みの親と言えよう。先生に伺ったところ、昔は古い校舎の広い作法室やプレハブや合宿棟をあちこちと移動して大変だったとのこと。それでも初めの頃は八十名から九十名ほども部員がいて、先生のお弟子さんにも指導をお手伝い頂いたとのこと。また、時には体育館のステージで茶の湯音頭に合わせてお点前を披露したこともあったとのことだ。

昔を思うと、現在は十数人で、しかも水屋や床の間も設けられたきれいな作法室で、一人一人先生から丁寧にお点前を習うことが出来、幸せに思う。三年間続けると、部員たちの立ち居振る舞いは本当にしなやかになる。さらに、お点前ばかりでなく、半東をしたり、お客になって美味しい和菓子や抹茶を頂いたりと総合的に茶道を身に付けることが出来る。

例年、秋の文化祭にお茶会を開いて、皆さんに抹茶を飲んで頂き、練習の成果を発揮している。当日は目の回るような忙しさだが、部員全員一生懸命立ち動き、活動している。

これからも、今までと同様楽しく和気藹々と部員たちと茶道を学んでいきたいと思う。

演劇部

顧問　岡屋義之
　　星　幸代

「今、高校演劇が面白い」と、商業演劇からも注目され、自治体が高校演劇フェスティバルのようなものを主催する状況が、全国的に起こってきています。全国的にみても埼玉県は高校演劇の盛んな地域で、レベルも高いものがあります。

そんな中にあって、我が児玉高等学校演劇部は地道に活動を続けています。運動部が盛んな本校では、文化部が部員を集めることはなかなか困難な面がありますが、部員数は男子七人、女子七人の十四名です。圧倒的に女子部員が多いこの世界で、半数が男子というのはとてもすごいことなのです。

現在、秋に行われる深谷・本庄地区大会に向けて、一丸となって創作ミュージカルに取り組んでいます。この大会は、県大会、関東大会、さらには、高校演劇の甲子園とも呼ばれる全国大会へとつながる大会の地区予選です。生徒たちが自ら脚本を書き、作曲し、ダンスの振り付けをしと、まさに手作りの活動を行っております。地区大会も、生徒が中心になって会議を行い、当日の運営を自主的に行っております。高校生の部活動でこのような活動ができるのは、演劇だけではないかと思います。「指示待ち世代」であるとか「三無主義」であるとか、自ら考え行動を起こすことの少ない若者に対する世代批判としてよく用いられる言葉ですが、少なくとも、児玉高校演劇部員には当てはまりません。是非ご声援下さいますようお願い申し上げます。

本部役員と理事

先般の総会において、新役員の選任が承認されましたので、ご紹介いたします。

長い間、ご尽力をいただきました前役員の皆様に改めまして御礼申し上げます。

会　長　松本　一夫
副会長　根岸　義守
　　田島　勇八、瀬山　尚志
　　久保佐代子、沖村　良子
幹　事　高木　清憲、立花　勲
　　石坂　清
　　石井　敏郎（会計兼務）
監査役　吉田　節子、田島　道子
相談役　吉川　幸男、林　喜一
　　梅沢　仁
顧　問　田島　敏包

各委員会の理事の紹介

《名簿作成・広報委員会》

会員名簿の作成　記念事業の計画及び活動　事業に関する広報活動等

担当副会長　瀬山　尚志
委員長　浅見　透
副委員長　中林　都明
幹　事　金井やよひ
委　員　倉林　栄市、伊藤　ふさ
　　木村　葉子、熊倉　清次
　　山崎　康雄、根岸　孝子
　　武内　順子、桜井　直子
　　金井　保夫、木村　史雄
　　荒井　一夫、神岡　和年
　　鈴木　政弘、内山みつ江
　　落合　崇志、渋谷　正敏
　　奥原　好彦、飯野　晴美
　　小林　利幸

《育英・母校ルネッサンス委員会》

在学生の勉学　クラブ活動に対する援助　母校の活性化に協力するための活動

担当副会長　田島　勇八
　　沖村　良子
委員長　岩上　高男
委　員　岩片　満彦、新井　初枝
　　福島　慎治、石原　秀一
　　卜部　義子、堀越　久夫
　　沢本美喜男、長谷川志野夫
　　長谷川昌則、出牛　幸平
　　秋間喜代子、脊山　知教
　　川上　守之、阪本　和絵
　　石川　克彦、秋山　和広
　　角谷　清子、遠藤　武美
　　今泉　好美

《親睦・組織委員会》

各種会合　旅行会等　会員の親睦を深める活動及び会の円滑な運営のため組織の整備を行う

担当副会長　久保佐代子
委員長　吉田　豊彦
委　員　萩原　泉、小島　満江
　　倉林　秀美、新井　茂守
　　小林　修、田村　昭子
　　峰岸　栄、小倉　正貴
　　黒沢　洋子、芳野　勇
　　安斉　彰、田島　優子
　　高木　弘之、岩丸　彰男
　　細田　明、田端登美子
　　小林太美江、土屋　智子

発行協力金のお願い

会報発行の援助金として、六〇〇余名を超える方々よりご協力金を頂いております。皆様の応援をいただき、末長く会報が続きますようご協力をお願い致します。

（発行協力金として二、〇〇〇円送金下さった方に、今後十年間会報をお送り致します。）

振込・連絡先
児玉高校内同窓会事務局
（誠におそれいりますが現金書留等にて）

新年会のご案内

恒例の新年会は、左記のとおり日程が決まっています。会員の皆様には、多勢出席していただけるよう、今から調整をしておいて下さい。

新年会日程
平成十年一月三十一日（土）
午後四時より
埼玉グランドホテル本庄にて

同窓会の活動紹介

八年度の主な活動を紹介しますと、五月の総会、十一月の親睦旅行、九年一月の新年会を開催するほか、会員名簿の発行等です。

総会については、会場の都合により母校での実施となりました。以前は、東京見物や観劇と併せての総会もありましたが、皆様のご意見でまたそのような方法もと考えています。

秋の親睦旅行は晩秋の奥多摩でしたが、おそい秋の気配を感じながらの御岳神社、王堂美術館、吉川英治記念館は心に残る親睦旅行となりました。また、九年度も楽しい旅をと、役員で検討中ですので大勢の方々の参加をお願いします。

恒例の新年会は、一月二十五日、埼玉グランドホテル本庄にて盛大に行なわれました。遠方から、新年会のためにおい出下さる方も多く、今後も益々盛大にできれば良いと思っております。

各委員会ごとの事業として特筆すべきは、会員名簿の発行です。関係者の皆さんの絶大なるご協力により、立派な名簿ができたことに心から感謝するとともに、この活用を期待しています。

このほか、母校への応援、新会員の同窓会入会式等を実施しましたが、これからも皆様の声を反映した活動を展開していきたいと思いますので、ご意見をお寄せ下さい。

編集後記

十一号では、修学旅行を特集してみました。本校も創立七五周年となり、同窓生の中から、年代別に九人の方々にアンケートをお願いしました。

修学旅行の思い出は、名所・旧跡の見学よりも、人との触れ合いのことが一番の思い出となっている方が、多いようです。

皆様も、忙しい毎日の中で、ふと学生時代の頃を思い出すこともあるでしょう。

「時の針」も身近に愛される、楽しい会報にしたいと思います。ご意見ご希望を是非お寄せください。お待ちしています。

また今回アンケート・原稿にご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

編集・発行
〒三六七―〇二
埼玉県児玉郡児玉町八幡山四一〇
埼玉県立児玉高等学校内
児玉高校雉岡会（同窓会）
電話〇四九五―七二―一五九一